



富山県知事  
石井 隆一

## 「環日本海・アジア新時代」の到来に向けて

富山県は、中国・遼寧省、ブラジル・サンパウロ州、アメリカ・オレゴン州、ロシア・沿海地方の4つの海外自治体と友好提携を結び、経済、観光、芸術文化、教育、環境など様々な分野での交流・協力を進めています。また、韓国江原道や中国上海市、さらにはスイス・バーゼル地域などとも特定分野での交流を行っています。

とりわけ、遼寧省とは、1984年に友好県省を締結して以来、四半世紀以上にわたる交流の積み重ねがあり、李克強<sup>りこくきやう</sup> 中国國務院副総理(元遼寧省共産党書記)からも、両県省の交流は「日中自治体間交流の模範である」との高い評価をいただいているところです。

近年、中国、東南アジアなど環日本海・アジア地域が著しい経済成長を遂げており、今後は、こうした成長エネルギーを取り込み、本県と環日本海・アジア地域がともに繁栄する「WIN-WIN」の関係を構築していくことが重要です。

こうしたなか、昨年、私を団長とする経済・観光訪問団が、5月に中国北京・遼寧省、7月にシンガポールとタイを訪問し、経済交流の推進や本県の優れた観光資源のPRに努めてまいりました。特に、中国訪問は、東日本大震災後における、自治体首長の初めてのトップセールスということで注目度が高く、昨年10月の富山-大連・北京便のデイリー運航実現にも結びつきました。今後、中国との経済・観光交流に一層の弾みがつくものと大きな期待を寄せています。

また、昨年11月には、伏木富山港が、国の「日本海側拠点港」のうち、「国際海上コンテナ」、「国際フェリー・国際RORO船」、「外航クルーズ」の3項目で「機能別拠点港」に選定されるとともに、「総合的拠点港」5港の一つにも選定されたところであり、環日本海・アジア地域のゲートウェイとしてさらなる発展が期待されています。

一方、グローバル化が進展するなかでも、県づくりの基本は「人づくり」です。本県では、昨年25周年を迎えられたJETプログラムを大いに活用し、外国語教育の充実に努めるなど、次世代を担う若者の人材育成に取り組んでまいりました。また、発展する中国やASEANなどのエネルギーを取り込み、富山県の発展につなげるため、今後、優秀な外国人留学生の受入拡大と人材活用を進めることも大切であると考えています。

現在、富山県では、中長期的視野に立った県政運営の指針となる新総合計画の策定を進めています。この中でも『環日本海・アジア新時代』を県づくりの視点の一つとして位置づけ、今後とも、「先見性」と「戦略性」を持って新たな富山県の未来を切り拓いていきたいと考えています。